

# URA活躍の場の新展開

令和5年2月

文部科学省 科学技術・学術政策局  
人材政策課長 橋爪 淳



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## **本日お話をさせていただきたい点**

- 1. なぜURAか？これまでの取組と現状**
- 2. 社会の変化とこれからのURAへの期待**
- 3. URAネットワーク、質保証の重要性**

## ○ リサーチ・アドミニストレーターとは

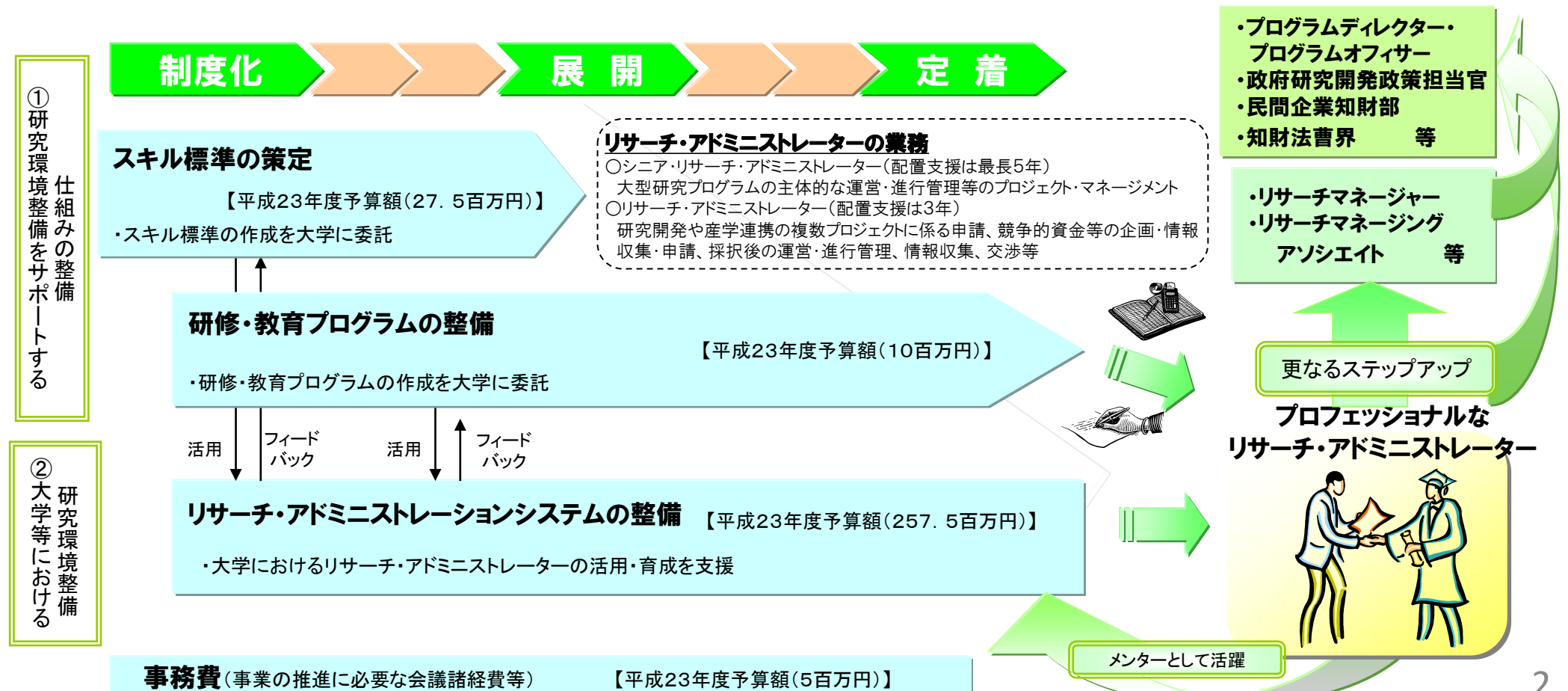
単に研究に係る行政手続きを行うという意味ではなく、大学等において、**研究者とともに、研究活動の企画・マネジメント・成果活用促進を行う人材群。**(作家に対する編集者のような存在)

## 目 的

- 研究者の研究活動活性化のための環境整備
- 大学等の研究開発マネジメントの強化
- 科学技術人材のキャリアパスの多様化

## 概 要

- ① スキル標準の策定、研修・教育プログラムの整備など、リサーチ・アドミニストレーターを育成し、定着させる全国的なシステムを整備
- ② 研究開発に知見のある人材を大学等がリサーチ・アドミニストレーターとして活用・育成することを支援



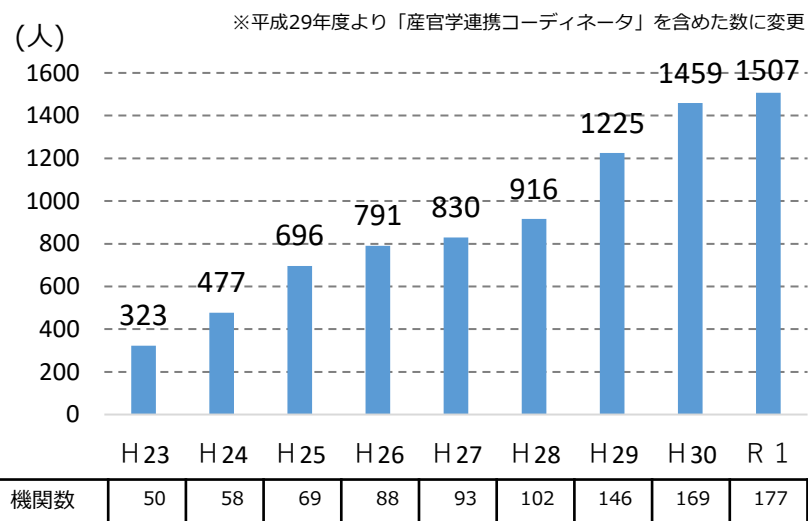
---

**日本のURA支援施策は12年目（平成23年度にスタート）**

**→ 東京大学は、「スキル標準の策定」を担当いただくとともに、  
最初の配置支援先大学（5大学）のひとつ**

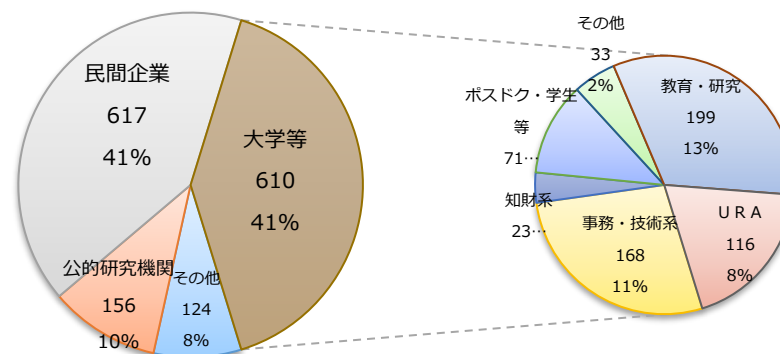
# リサーチ・アドミニストレーター（URA）をめぐる状況等について

## ●URA配置数の推移

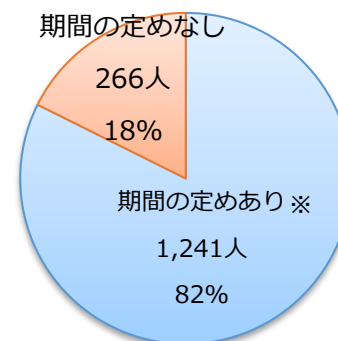


## ●URAの多様なバックグラウンド（n = 1,507）

現在のURA職に就く前の所属機関等

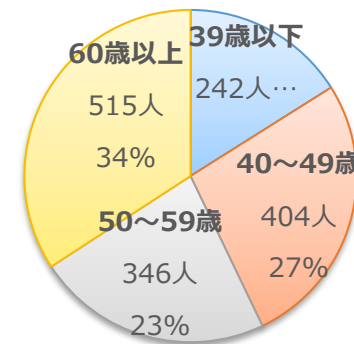


雇用期間



※「10年以上」と回答した54人を含む

年代構成



## ●「URAとして配置」と整理する者の職務従事状況

| 主たる担当業務 | プレ・アワード担当 | ポスト・アワード担当 | 研究戦略推進支援担当      | プレ・アワード及びポスト・アワード担当 | プレ・アワード及び研究戦略推進支援担当 | ポスト・アワード及び研究戦略推進支援担当 | プレ・アワード、ポスト・アワード、研究戦略推進支援担当 | 教育プロジェクト支援担当      | 国際連携支援担当 |
|---------|-----------|------------|-----------------|---------------------|---------------------|----------------------|-----------------------------|-------------------|----------|
| 従事人数    | 102       | 54         | 57              | 138                 | 133                 | 18                   | 250                         | 7                 | 43       |
| 主たる担当業務 | 産学連携支援担当  | 知財関連担当     | 研究機関としての発信力推進担当 | 研究広報関連担当            | イベント開催関連担当          | 安全管理関連担当             | 倫理・コンプライアンス関連担当             | その他（いずれにも該当しない場合） | 計        |
| 従事人数    | 424       | 173        | 7               | 33                  | 7                   | 8                    | 12                          | 41                | 1,507    |

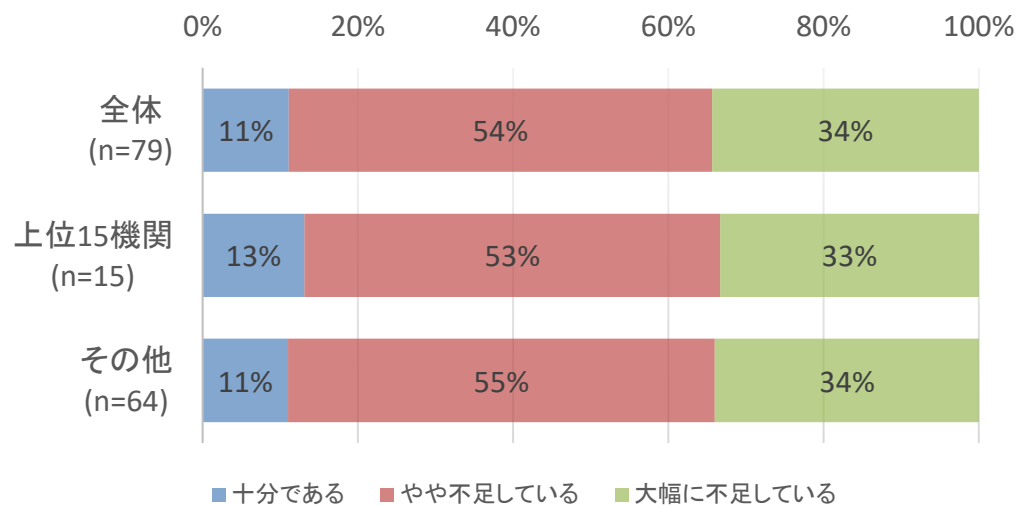
雇用財源

| 財源        | 人数        |
|-----------|-----------|
| 研究大学強化促進費 | 219人（14%） |
| その他の外部資金  | 327人（22%） |
| 機関の運営経費   | 961人（64%） |

# リサーチ・アドミニストレーターに対する各機関の現状認識 ①

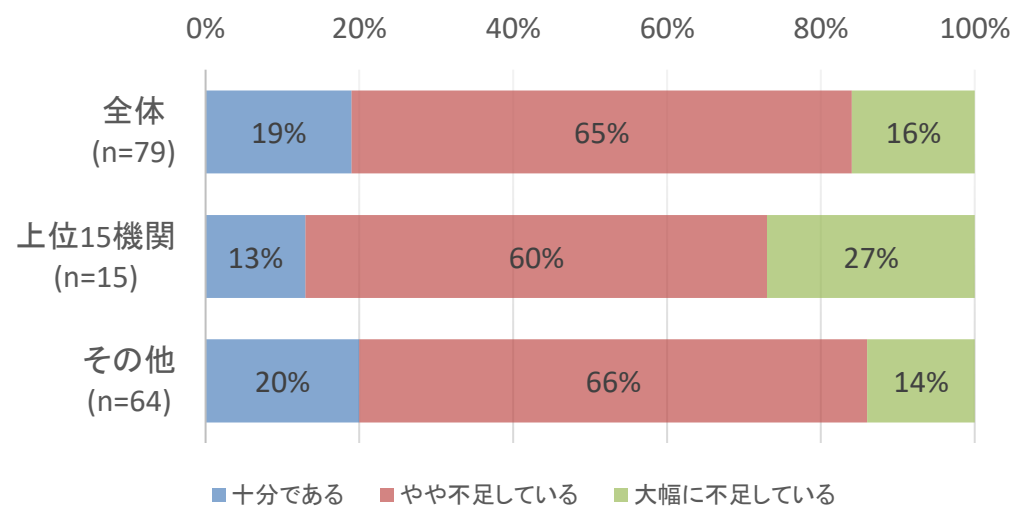
○雇用しているURAの充足状況について、**量・質ともに8割以上の機関が十分でないと認識**している

## 量的な充足状況



次世代の育成が必要

## 質的な充足状況



現職URAの資質向上が不可欠

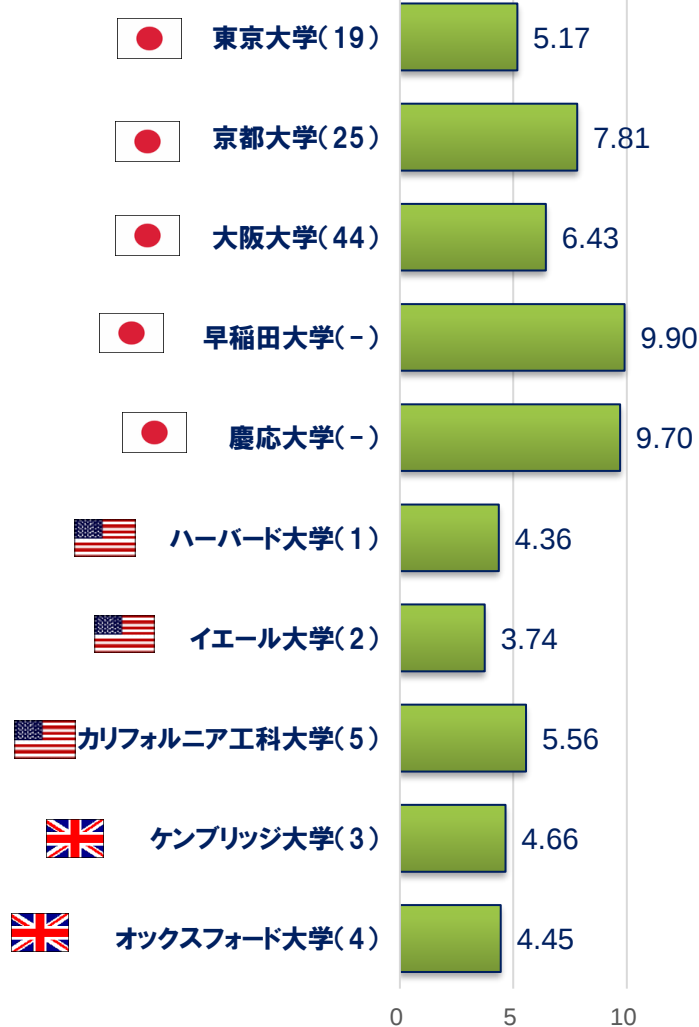
上位15機関は、アンケート対象機関について科研費獲得額ランキング(平成27年度)による  
対象：「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」において「URAを配置している」と回答した88機関  
出典：平成27年度文部科学省委託調査「リサーチ・アドミニストレーター業務の自立的運営に向けた調査・分析」（受託機関：（株）三菱総合研究所）

# 大学における教員、職員の割合の海外比較

- 海外のトップレベル大学と比較すると日本の有力大学の教員数、職員数は少ない。

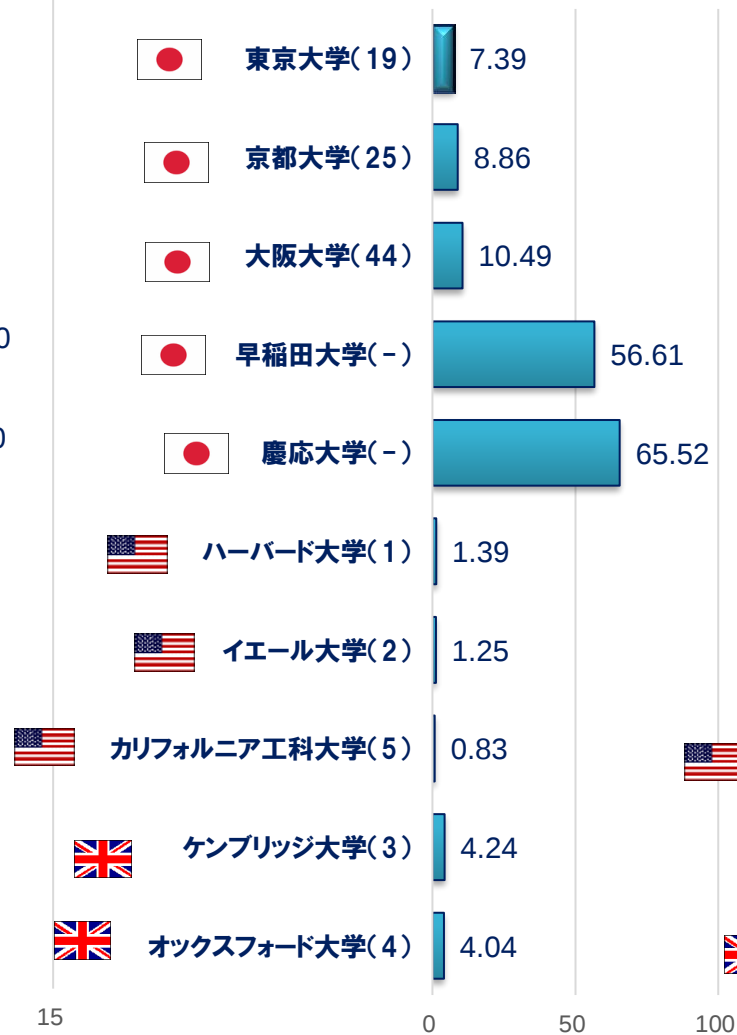
## 学生数／教員数

※カッコ内は当時のTIMESランキングの順位



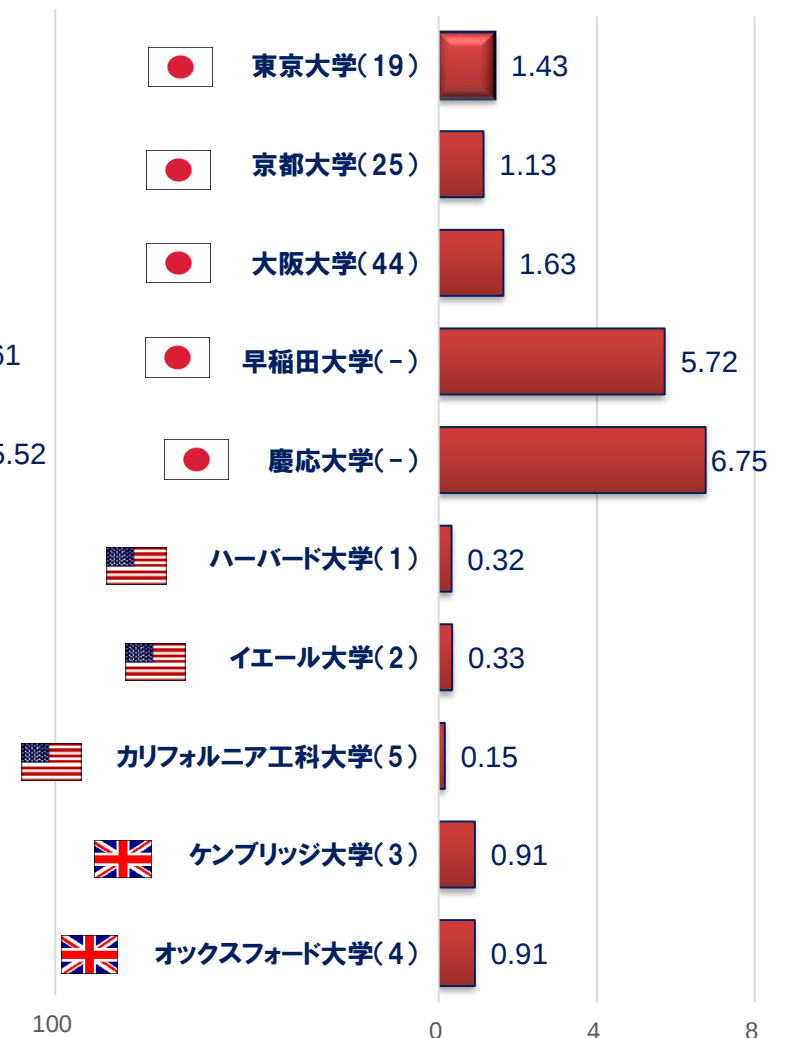
## 学生数／職員数

※カッコ内は当時のTIMESランキングの順位



## 教員数／職員数

※カッコ内は当時のTIMESランキングの順位



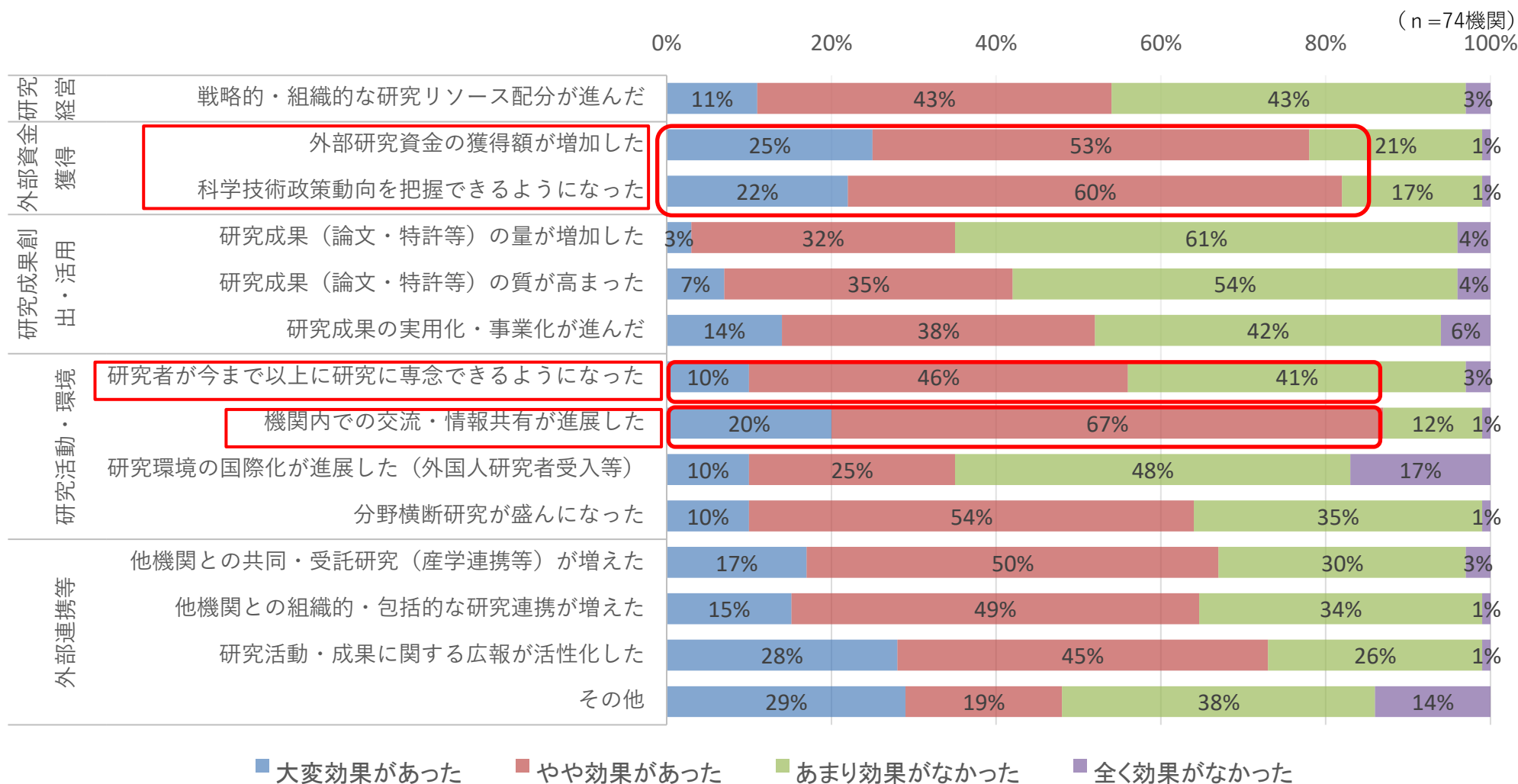
(注)・The Times Higher-QS World University Rankings上位200大学(ただし早稲田大学及び慶応大学はランキング圏外)のうち、データ算出が可能な主要国の上位大学を抽出して比較している。

・学生数及び教員数はFTE(専従換算)を使用しているが、早稲田大学及び慶応大学については国内比較用のデータを使用している。

【出典】(一社)日本物理学会キャリア支援センター情報分析調査委員会「大学における大学生・教員数比率の国際比較」最終報告(平成22年1月)をもとに文部科学省作成

## リサーチ・アドミニストレーターに対する各機関の現状認識 ②

### URAを配置したことによる効果



対象：「平成26年度大学等における産学連携等実施状況調査」において「URAを配置している」と回答した88機関

出典：平成27年度文部科学省委託調査「リサーチ・アドミニストレーター業務の自立的運営に向けた調査・分析」（受託機関：（株）三菱総合研究所）

---

**URAの人数は着実に増加**

**担当業務の幅は広い**

**(プレアワード、ポストアワード、研究戦略推進、産学官連携・知財 等)**

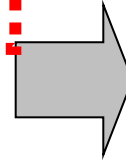
**バックグラウンド（前職、年代構成）は多様**

**→ 一方で、量的・質的拡大が求められている**

**→ 効果については肯定的な声が多い**

●研究者の研究活動活性化のための環境整備

- ・十分な研究時間の確保
- ・最適な研究企画・実施体制の構築

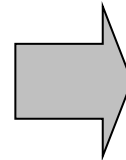


研究の質の向上・加速

若手研究者が活躍できる環境

●大学等の研究開発マネジメントの強化

- ・社会・経済のニーズの把握、成果の円滑な活用の促進、アウトリーチ活動の強化
- ・戦略的な外部資金獲得サイクルの確立と、研究目標達成に向けた組織的取組の強化
- ・コンプライアンス、利益相反、安全保障貿易管理、倫理的課題等への適切な対応
- ・研究資金・人的資源の効果的・効率的な執行



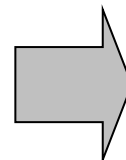
社会・経済への貢献

日本全体の研究パフォーマンス・  
国際競争力の向上

イノベーションの促進

●科学技術人材のキャリアパスの多様化

- ・科学技術人材の新たな職域の開拓と雇用拡大
- ・学内及び産学官間の人材交流の促進



科学技術人材の  
多様化・流動性の向上

---

**URAの政策的意義は、現在も変わらず重要**

**→ 一方でURAを取り巻く社会環境は絶えず変化**

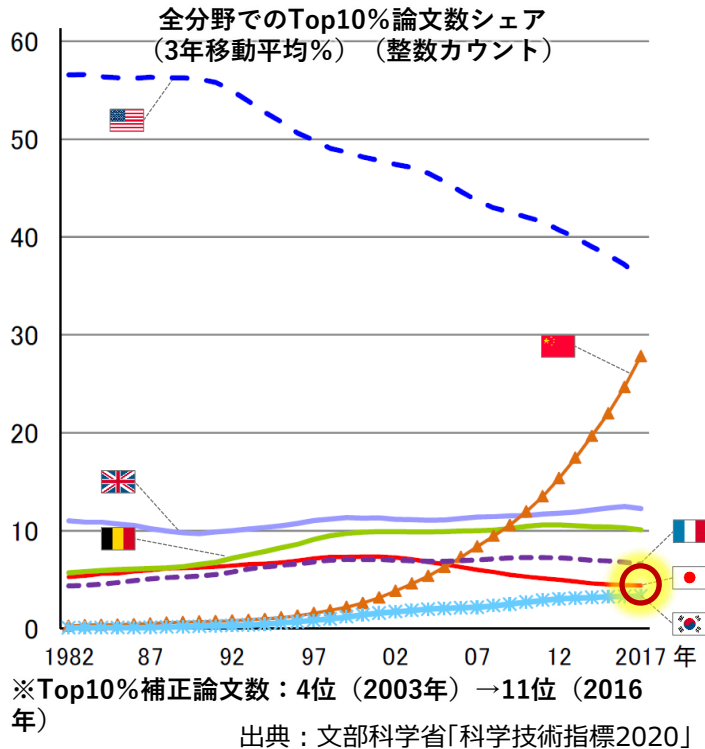
**→ URAの業務内容や業務の実施手法等を絶えず**

**変革していくことが必要**

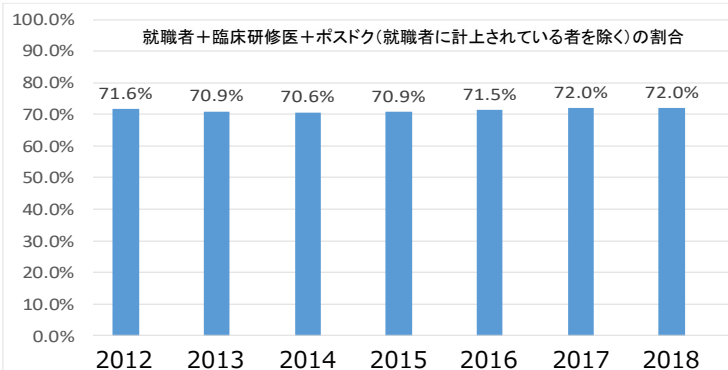
# 科学技術・イノベーションの現状①

## 研究力

### 論文数シェアは低下傾向

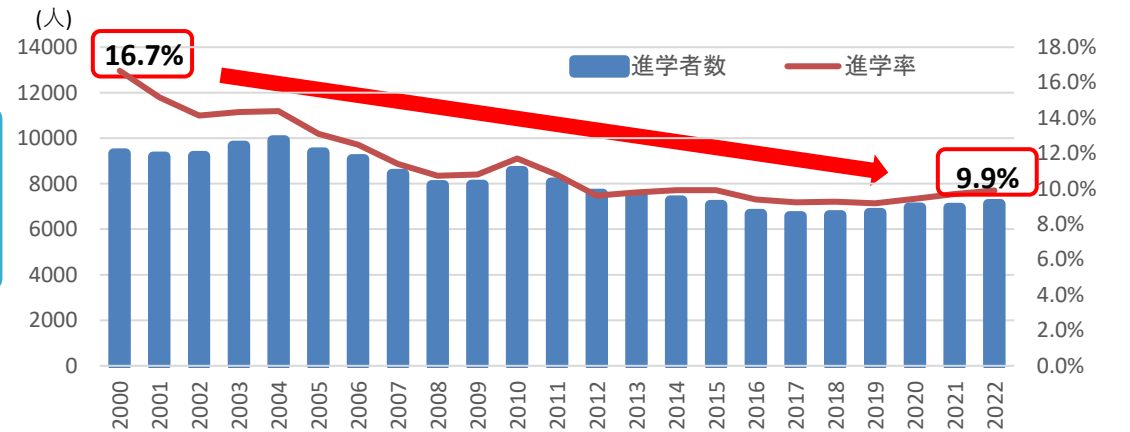


### 博士後期課程修了者の就職率が停滞



## 研究環境

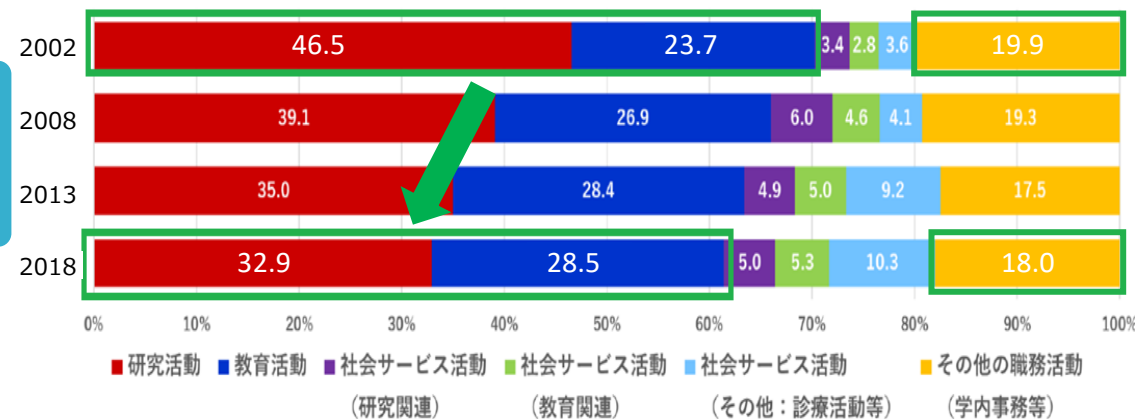
修士課程から  
博士後期課程  
等への進学率  
が減少



40歳未満国立大  
学教員のうち  
「任期付き」  
割合が増加



大学等教員の  
研究・教育活動  
の割合が低下、  
時間が減少



出典：学校基本統計

出典：大学等におけるフルタイム換算データに関する調査

---

**研究力・研究環境ともに状況は、悪化または停滞**

**→ このままでは、世界のトップ集団から**

**転落しかねない**

**→ 研究者のパフォーマンス向上のための環境整備が急務**

**= URAの出番！**

# 科学技術・イノベーションの現状②

## 世界企業時価総額

ランキングは一変

| 1989年 | No | 企業名          | 時価総額<br>(億米ドル) |
|-------|----|--------------|----------------|
|       | 1  | 日本電信電話       | 1,639          |
|       | 2  | 日本興業銀行       | 716            |
|       | 3  | 住友銀行         | 696            |
|       | 4  | 富士銀行         | 671            |
|       | 5  | 第一勧業銀行       | 661            |
|       | 6  | IBM          | 647            |
|       | 7  | 三菱銀行         | 593            |
|       | 8  | エクソン         | 549            |
|       | 9  | 東京電力         | 545            |
|       | 10 | ロイヤル・ダッチ・シェル | 544            |

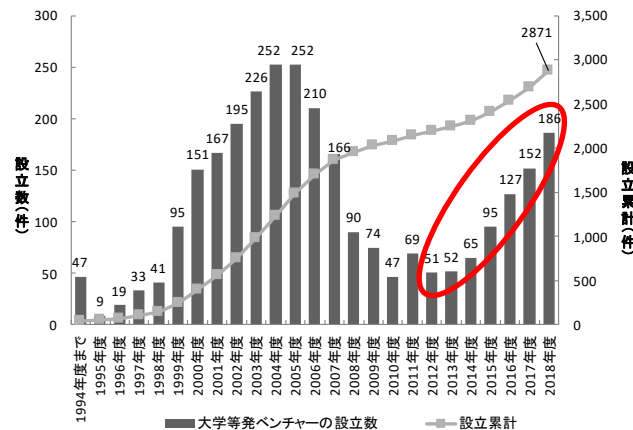
| 2022年 | No | 企業名                    | 時価総額<br>(億米ドル) |
|-------|----|------------------------|----------------|
|       | 1  | アップル                   | 22,282         |
|       | 2  | マイクロソフト                | 23,584         |
|       | 3  | サウジ・アラビコ               | 18,869         |
|       | 4  | アルファベット                | 18,215         |
|       | 5  | アマゾン                   | 16,353         |
|       | 6  | テスラ                    | 10,311         |
|       | 7  | メタ・プラットフォームズ           | 9,267          |
|       | 8  | バークシャー・ハサウェイ           | 7,147          |
|       | 9  | NVIDIA                 | 6,817          |
|       | 10 | 台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング | 5,946          |

※Top50社に米国は34社、中国は5社、日本は1社

出典：CNET Japan  
https://japan.cnet.com/article/35182623/

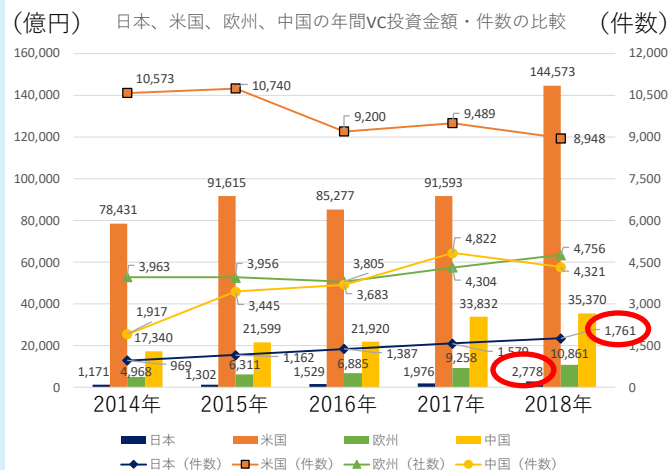
## スタートアップ

大学発ベンチャー設立数は拡大基調



出典：文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」

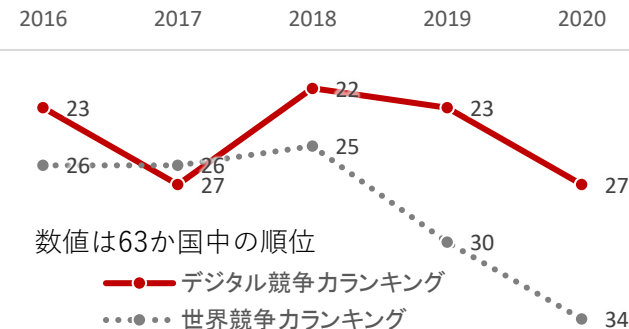
スタートアップ投資金額・件数は低調



出典：一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター「ベンチャー白書2019」を基に作成

## デジタル化

制度的対応、企業対応、人材育成等の部門で大きく見劣り



### 【評価が高い部門】

- モバイルブロードバンド利用者数 1位
- 高等教育の生徒当たり教員数 1位
- 先進技術の特許 4位
- 教育やR&Dでのロボット利用 4位
- PISA (数学) 5位
- R&D投資 6位
- など14項目が10位以内

### 【評価が低い部門】

- 制度的フレームワーク 44位
- サイバーセキュリティ 45位
- 国外の高技能人材 54位
- デジタル技術スキル 62位
- 国際経験 63位
- 企業の変化迅速性 63位
- ビッグデータ利用と分析 63位
- など27項目が30位以下

出典：IMD世界デジタル競争ランキング2020

---

**技術の進歩や価値観の変化、多様化を反映した**

**社会・産業構造の転換に遅れ**

**→ 研究開発の成果を十分に社会の発展に活かされて  
いないのではないか？**

**社会の発展を先導する研究開発が十分にできて  
いないのではないか？**

**→ 新たな社会ニーズ・トレンドを先取りする研究プロジェクト  
形成と成果の社会展開が重要 = URAの出番！**

---

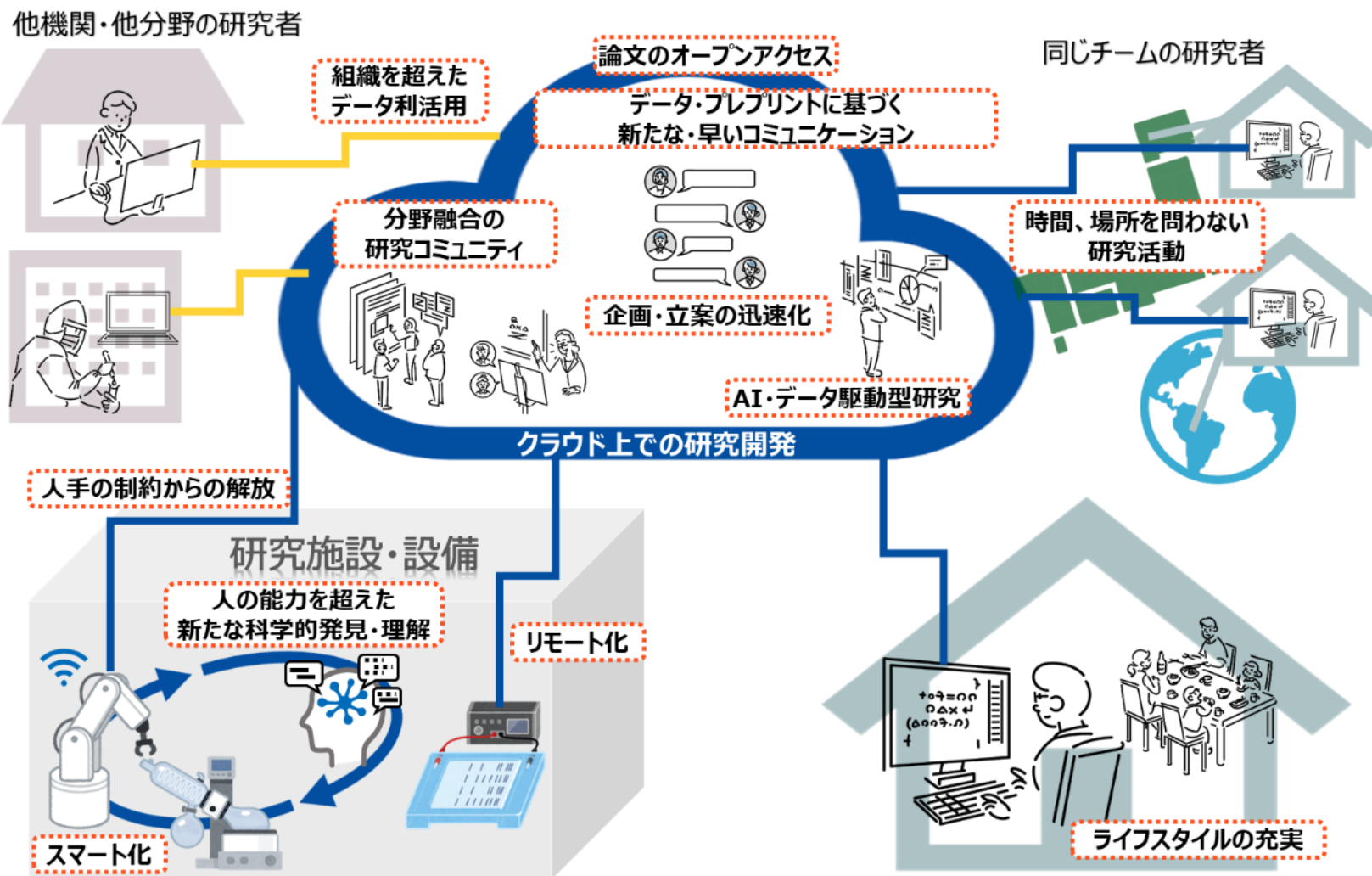
**例えば、DX**

**DX・・・研究対象 + 社会や研究を変革する手段**

# 研究デジタルトランスフォーメーション（研究DX） = Society 5.0時代の研究スタイル



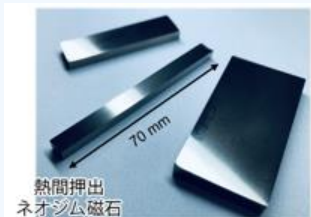
「AI」 × 「データ」 × 「リモート化・スマート化」 ⇒ 価値創造  
研究デジタルトランスフォーメーション（研究DX）



# 研究DXの先行的な成果事例

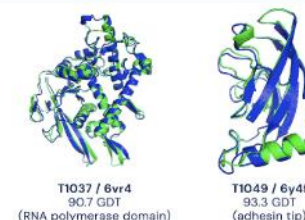
## AIが約6600万通りから最適な作製条件を探索 → AI解析前後で材料性能が1.5倍に向上

- 世界の電力消費量の約50%を占めるモーターの効率化・省エネ化のために、永久磁石の高性能化が期待。
- ネオジム磁石の作製プロセス条件は約6600万通りであり、網羅的な探索が不可能。AI解析により提案された最適な作製条件に基づいて実験計画を立てることで、わずか40回程度の実験でネオジム磁石の強さをAI解析前の約1.5倍向上させることに成功。  
(2021.11.15 プレスリリース)



## AIによるタンパク質の立体構造解析ツール → 数年かかっていた作業を圧倒的に短縮

- 2014年にGoogleが約670億円で買収したAI開発企業DeepMindが無償公開した遺伝子配列情報からタンパク質の立体構造を解析するAI「AlphaFold2」。
- 従来、タンパク質のアミノ酸配列の構造を特定するには数か月～数年かかり、多大な時間と費用が掛かっていたが、AlphaFold2では、限られた情報から構造と機能を推定することが可能に。



実験結果とシミュレーションの結果がほぼ類似

引用：新しい資本主義実現会議

## スパコン「富岳」を活用したゲリラ豪雨予測 → 30秒ごとに更新するリアルタイム性を実現

- ゲリラ豪雨は5～10分といった短時間で状況が急激に変化するため予測が困難。理研等の研究グループは、マルチパラメータ・フェーズドレイ气象レーダによる雨雲の詳細な観測データと、「富岳」による大規模計算により、高頻度かつ高精度な予測を実現。
- 2021年夏に、首都圏において30秒ごとに更新する30分後までのリアルタイム降水予報を世界で初めて実施。  
(2021.7.13 プレスリリース)



実証実験で表示される「3D 雨雲ウォッチ」アプリイメージ

## 仮説・実験・検証・修正のサイクルを自動化 → これまで着手が困難だった希少疾患等の創薬開発が推進

- ケンブリッジ大学とマンチェスター大学により開発されたロボットサイエンティスト「イブ」は、一日当たり1万化合物のスクリーニングを行うとともに、実験結果を統計学・機械学習により解析し、より高い活性をもつ新たな化合物の構造を予測し、実験・検証・修正のサイクルを繰り返す、仮説主導のハイスループット研究を自動化した。
- 製薬企業が手を出しにくい希少疾患等に対する創薬開発が推進されることが期待。



Robot scientist Eve

引用：JST リサーチトランスフォーメーション（RX）ポスト /with コロナ時代、これからの研究開発の姿へ向けて

「AI」、「データ」、「リモート化・スマート化」による圧倒的な生産性の向上とハイインパクトな成果が生まれ始めている。しかし、まだ一部の研究者・研究領域のみ。この変革の動きを、日本全体に発展させることが必要。

# 研究DX実現に向けた取組（研究DXプラットフォーム概念図）

社会課題解決や新たなサービスなどの価値創造

超効率化による生産性向上と研究者の働き方の変革

医療

健康

環境

エネルギー

交通

都市

安全・安心

価値創造を目指したユースケースの形成・普及  
(AI・データ駆動型研究開発の推進、データプラットフォーム形成など)

海外機関  
民間企業



人文社会

気候変動・レジリエンス  
NIED

DIAS

ライフサイエンス  
NBDC

DATA-EX

国プロ

デジタル人材育成

NIMS

マテリアル

データ管理・利活用に関する  
制度の改善（評価等）

全国的  
研究データ  
基盤

大学・研究機関

分野・基盤の融合  
(AI・スパコンなど最先端基盤技術の活用)

RIKEN  
AIP

全国的なデータ共有・利活用を促進する基盤的機能の強化  
(横断的なデータ検索、制度改善、分野・基盤融合、人材育成など)

SPring-8

HPCI  
富山

mdx

大強度陽子加速器施設  
J-PARC

クラウド

SINET

研究デジタルインフラ等の効果的活用  
(スパコン、SINET、ストレージや大型研究施設等の高度化や利便性の向上など)

---

## **Society 5.0時代の研究スタイル＝研究DX**

**(データ駆動型サイエンス＋研究のリモート化・スマート化)**

**→ 新たな研究手法による科学の発展**

**新たな研究者コミュニティ・連携の構築**

**研究者の働き方改革への貢献**

**→ DXを踏まえたURAの新たな活動手法の探究が重要**

---

**例えば、多様性・総合知**

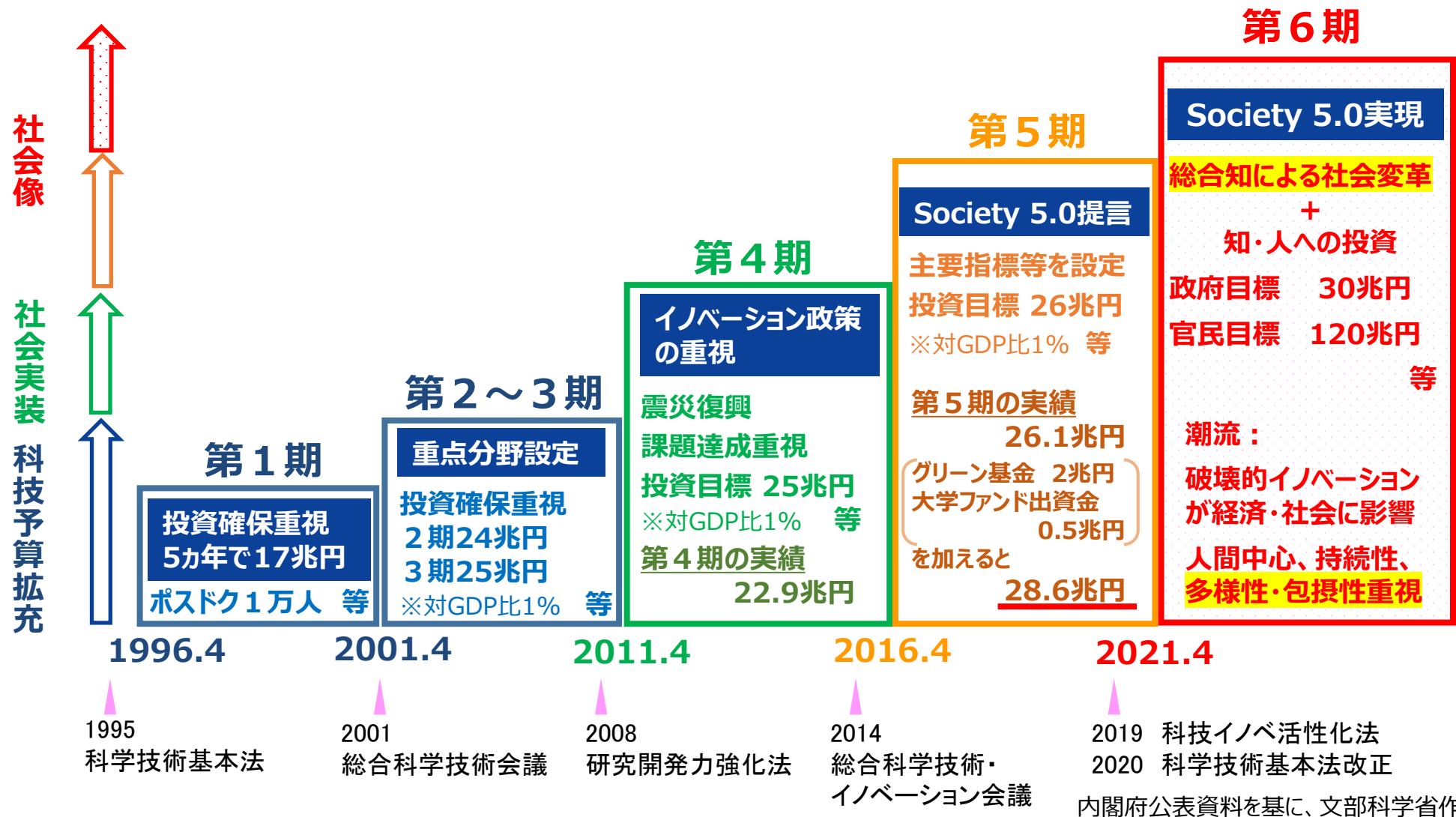
**多様性・・・目指すべき社会 + 研究成果やイノベー**

**ション創出のための強み**

**→ 総合知の重要性が高まっている**

# 科学技術・イノベーション基本計画について

- 科学技術基本法(1995年制定)に基づき、基本計画を5年毎に策定
- 第1～3期では**科学技術予算拡充**、第4期では**社会実装**を重視、第5期では「**Society 5.0**」を提言
- 第6期は基本法の改正(2020年)、基本計画の対象に「**人文・社会科学の振興**」と「**イノベーションの創出**」を追加。本格的な社会変革に着手



### Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策の3つの大目標

- 我が国の社会を再設計し、地球規模課題の解決を世界に先駆けて達成し、国民の安全・安心を確保することで、国民一人ひとりが**多様な**幸せを得られるようにする
- **多様性**や卓越性を持った「知」を創出し続ける、世界最高水準の研究力を取り戻す
- 日本全体を Society 5.0 へと転換するため、**多様な**幸せを追求し、課題に立ち向かう人材を育成する

第6期科学技術・イノベーション基本計画を踏まえ、総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会での検討を経て、本年3月に中間とりまとめ。

## いま、なぜ、「総合知」が必要なのか

世界の研究や技術開発の目的の軸足が、「持続可能性と強靱性」、「国民の安全と安心の確保」に加えて、「一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」に移りつつある。

我が国の科学技術やイノベーションが、世界と伍していくためには、「あらゆる分野の知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る」ことが不可欠。



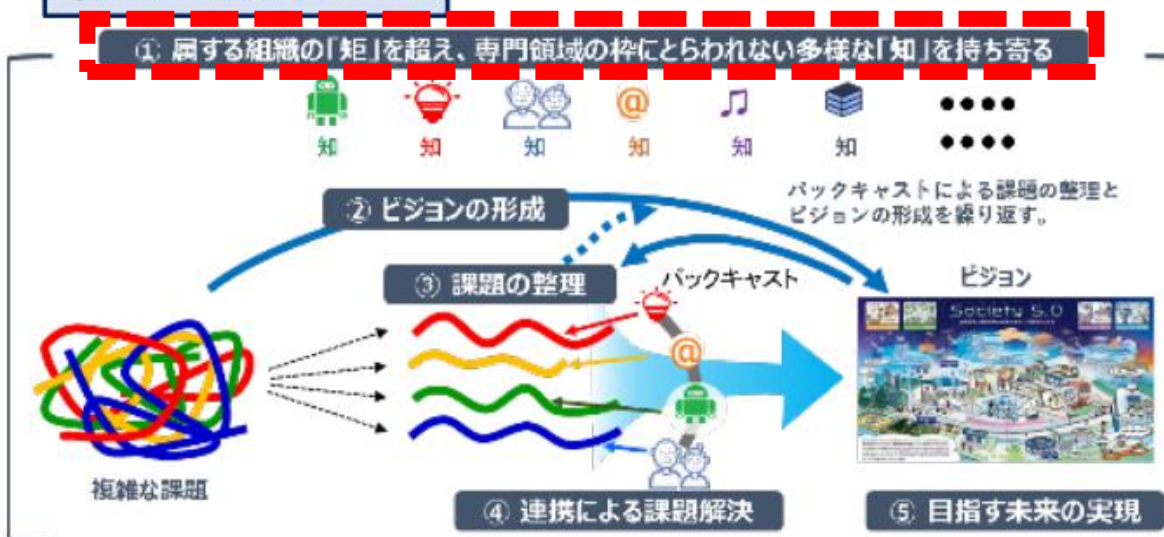
## 「総合知」の基本的考え方

### 総合知

### 多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うこと。
  - 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、科学技術・イノベーション成果の社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと。
- これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高める

### 総合知の活用イメージ



「総合知の活用」は、それ自体が目的ではなく、新たな価値の創造や課題解決により社会変革するための手段

- 新たな価値を創出  
～科学技術・イノベーション  
成果の社会実装を推進～
- 持続可能性や一人ひとりの多様な幸せ（well-being）に真正面から向き合う

科学技術・イノベーションを、我が国の「勝ち筋」の源泉に

\* 獲得した新たな「知」を次の場に活用する。

---

**一人ひとりの多様な幸せ（well-being）が実現できる社会**

**・・・目指すべきゴールの多様性**

**→ 多様な価値観、経験・感性等を研究プロジェクト**

**に反映することが重要（＝総合知の実践を可能とする研究  
開発マネジメント）**

**URAチームの多様性 → URAの活動手法の高度化や  
幅の拡がりに貢献**

---

以上は、一例

URAには、一貫した目的を実現するために、社会の様々な変化に即応（先取）し、新たな研究ニーズの把握や新たな研究マネジメント手法の開発（イノベーション）に取り組むことが日々求められているのではないか？

これは、行政官（アドミニストレーター）も同じ

---

加えて、近年、科学技術・イノベーションに係る支援の枠組み

や守るべきルールも多様化 → 必要な知識の幅・量が増大

- ・国際卓越研究大学への支援（10兆円規模の大学ファンドの運用益）

- ・地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（2,000億円）

※ 地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業を含む

- ・大学発スタートアップ創出の抜本的強化（988億円）

- ・先端国際共同研究推進事業（506億円）

- ・創発的研究支援事業（1,240億円）

- ・次世代研究者挑戦的研究プログラム（521億円）

- ・経済安全保障重要技術育成プログラム（2,500億円）

等々

---

**URAに求められる新たなニーズ・知識への対応のための一助  
として、**

**→ URAネットワークの形成**

**(大学内・大学間、URA個人・URA組織間)**

**→ 研修と認定**

## RA協議会 ネットワーキング関連の最近の活動

### (一社) リサーチ・アドミニストレーション協議会 (RA協議会)

英語名: Research Manager and Administrator Network Japan (RMAN-J)

2015.3.11 旧RA協議会設立  
2021.4.1. 一般社団法人化

リサーチ・アドミニストレーションに携わる人材の育成・能力向上, 課題の共有・解決及び組織・体制・制度の検討等についての情報交換を通じ, 我が国の大学等の研究力強化に貢献し, 学術及び科学技術の振興並びにイノベーションに寄与します。

#### 会員状況 (2023.1.30現在)

|               |      |
|---------------|------|
| ◆ 組織会員        | 34機関 |
| ◆ 個人会員 (組織内外) | 668名 |
| ◆ 賛助会員        | 5団体  |

#### <年次大会>

第1回年次大会 2015年9月1日、2日、信州大学 参加者数:419名、所属機関数:118機関

第8回年次大会 2022年8月30日、31日、東北大学 参加者数:609名、所属機関数:136機関

第9回年次大会 2023年8月8日、9日 東京都立大学(東京たま未来メッセ)

#### <実務者への研修>

##### ①新任研修

2015年より、毎年5or6月に実施、全国国公立大学のURA、事務職員が参加(定員30名、ほぼ毎回満員御礼)

##### ②オプション研修

年次大会前日に実施(定員30名)

#### <大学執行部層の情報交換>

研究大学エグゼクティブフォーラム

2022年3月11日開催 組織会員を中心に98名参加(うちonsite 55名)「大学経営層からみる研究力強化とURAの役割」

#### <情報発信ネットワーキングセミナー>

年2回程度、オンラインによる情報交換

全国から、URA・大学事務職員・研究者など幅広い参加者による意見交換の場

約80名が参加

#### <国際的ネットワーク:各国URA団体の交流>

INORMS2021Hiroshima

各国のRMA/URA団体の国際連携組織

アジアで初開催:RA協議会主催(約510名/49国)

# リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施

令和5年度予算額（案）：45百万円  
（前年度予算額）：45百万円

## 背景・課題

○我が国の大学等を取り巻く環境が激しく変化し、自ら教育研究環境の革新を進めることが求められている状況において、**大学経営から研究戦略、研究推進支援に至るまで研究環境の充実に関するリサーチ・アドミニストレーター（URA）**には、**中核的役割**が期待されているところ。

○URAが担う多様な業務に必要とされる専門的な知識の習得機会の提供や、専門性の高い職種としてURAの能力を可視化されることなどにより、**URA等のマネジメント人材の育成と配置が一層促進**されることをもって、**大学等における更なる教育研究推進体制の充実強化を実現**。

研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ（令和2年1月23日総合科学技術・イノベーション会議決定）

**URAのキャリアパス構築に資する質保証制度の創設（2021年度）**

科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）

○**URA等のマネジメント人材**、エンジニア（大学等におけるあらゆる分野の研究をサポートする技術職員を含む）といった**高度な専門職人材**等が一体となったチーム型研究体制を構築すべく、これらが魅力的な職となるよう、**専門職としての質の担保と処遇の改善に関する取組を2021年度中に実施**する。

## 事業概要

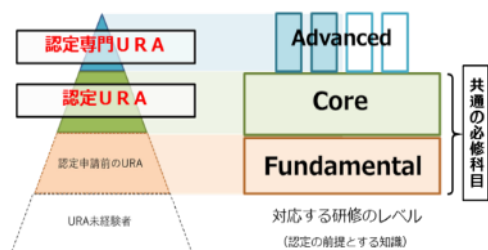
### 【事業の目的・目標】

質保証制度の実施に際し、URA等のマネジメント人材に必要とされる知識の体系的な専門研修受講の機会提供や、実務能力を踏まえた客観的な質保証（認定）を行うため、それらを行う質保証機関の運営を支援する。

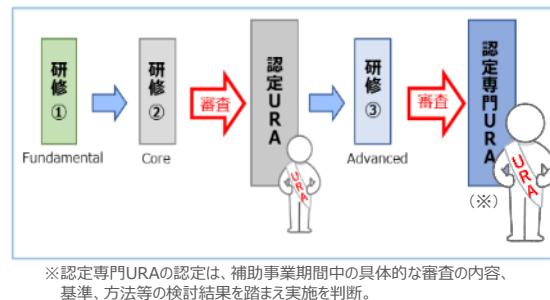
### 認定制度の概要

- ・研修は基礎的なレベルから3段階、認定は経験者を対象に2段階のレベルを設定する
- ・**多岐にわたるURA業務**の知識を得るための必修カリキュラムとして、Fundamental・Coreの2つのレベルにそれぞれ**15科目（10科目群）**を作成
- ・Coreレベル終了後に「**認定URA**」、専門的なAdvancedレベル終了後に「**認定専門URA（※）**」の認定を、書面又は面接審査を経た後に付与

#### ◎認定と研修のレベル整理



#### ◎研修の受講から認定までのイメージ

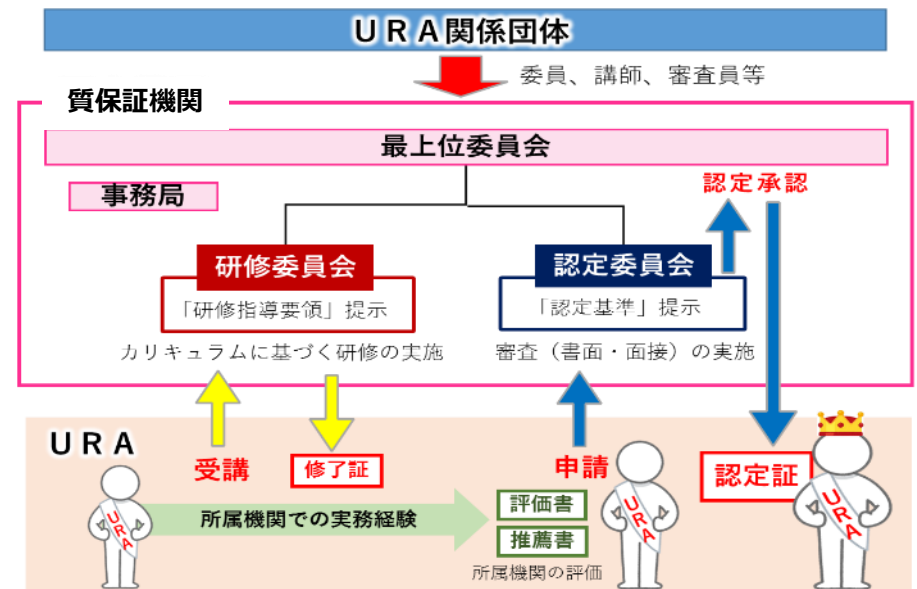


### 【事業スキーム】



- 支援規模：45百万円程度（令和5年度）/年×3年（令和3年度/2021年度～）
- 事業開始後の評価等：「進捗確認」及び「事後評価」の実施

### 【事業概要・イメージ】

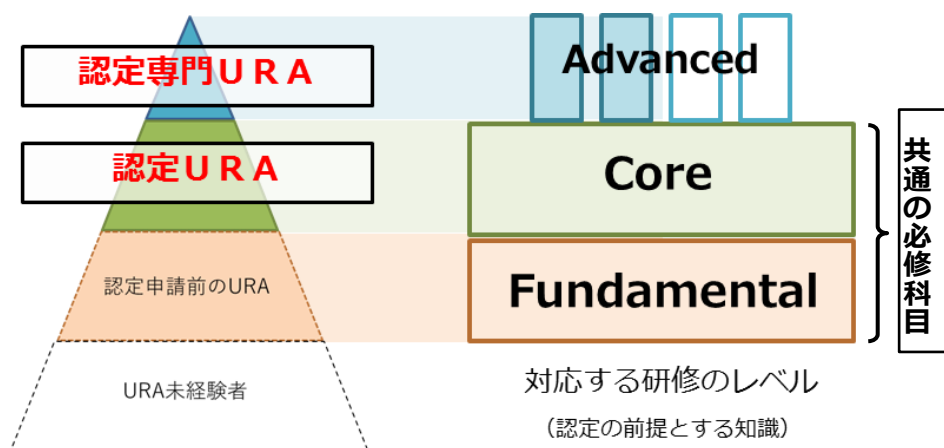


# リサーチ・アドミニストレーター（URA）等のマネジメントに係る質保証制度（概要）

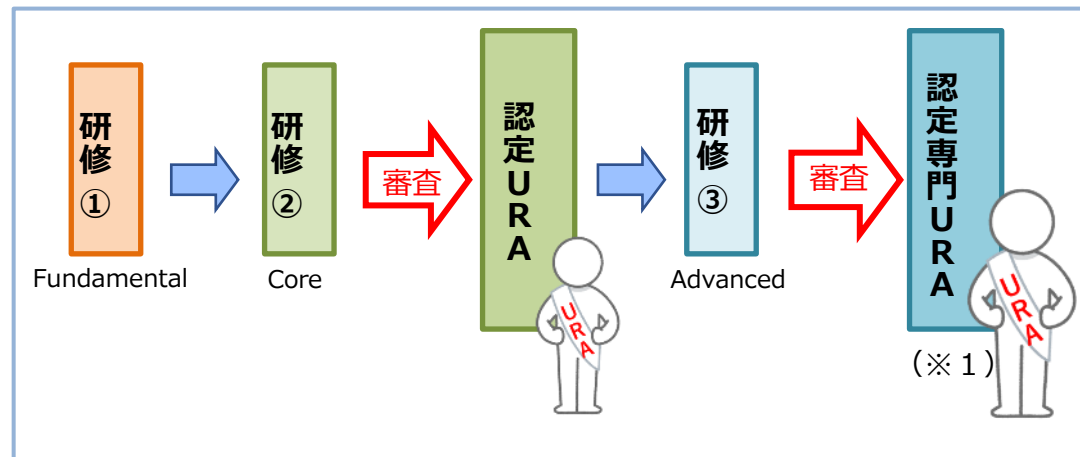
## 検討されている認定制度の概要

- ・研修は基礎的なレベルから3段階、認定は経験者を対象に2段階のレベルを設定する
- ・**多岐にわたるURA業務**の知識を得るための必修カリキュラムとして、Fundamental・Coreの2つのレベルにそれぞれ**15科目（10科目群）**を作成
- ・Coreレベル終了後に「認定URA」、専門的なAdvancedレベル終了後に「認定専門URA」の認定を、書面又は面接審査を経た後に付与

## ◎認定と研修のレベル整理



## ◎研修の受講から認定までのイメージ



※1 認定専門URAの認定は、補助事業期間中の具体的な審査の内容、基準、方法等の検討結果を踏まえ実施を判断。

## ◎研修科目群（FundamentalおよびCore）

| 科目群 |            | 科目名 |                   |
|-----|------------|-----|-------------------|
| A   | 研究機関とURA   | 1   | 大学等の研究機関          |
|     |            | 2   | 日本のURA            |
| B   | 研究力分析とその活用 | 3   | 科学技術政策概論          |
|     |            | 4   | 研究力分析とその活用        |
| C   | 研究開発評価     | 5   | 研究開発評価            |
| D   | 外部資金       | 6   | 外部資金概論            |
|     |            | 7   | 申請書・報告書の作成支援      |
| E   | 研究プロジェクト   | 8   | 研究プロジェクトのマネジメント手法 |

| 科目群 |                  | 科目名 |                   |
|-----|------------------|-----|-------------------|
| F   | セクター間連携          | 9   | 産学官連携             |
|     |                  | 10  | 地域連携              |
| G   | 知的財産             | 11  | 知的財産              |
| H   | 研究コンプライアンスとリスク管理 | 12  | 研究コンプライアンスとリスク管理① |
|     |                  | 13  | 研究コンプライアンスとリスク管理② |
| I   | 研究広報             | 14  | 広報                |
| J   | 国際化推進            | 15  | 国際化推進             |

※2 令和元年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の構築に向けた調査研究」（受託機関：金沢大学）を元に文科省作成

---

# FA（ファンディング・エージェンシー）における組織体制強化 の取組の一例

→ JST：研究開発マネージャーの募集

目指せ！  
日本の科学技術を変える

# “研究開発 マネージャー” (仮称)

～第一期 募集開始～

将来の日本の科学技術を牽引するプロデューサーを目指す  
意欲ある方々をお待ちします！（若手も歓迎！）

募集の職制：ファンディング事業推進を担う常勤職員（任期制職員）

※「研究開発マネージャー」（仮称）とは、科学技術の「イノベーション政策」と「研究現場」をつなぐ高度な専門人材（プロデューサー的な人材）と位置付けております

## 今回募集する職種の魅力

### ■ファンディング関連部門（最先端研究の最前線支援）に勤務します

- ・第一線の研究者と力を合わせて取り組んでいただきます
- ・世の中を変えるイノベーション創出に貢献できる仕事です

### ■任期制職員から定年制職員への道※があります

登用後は…

- ・複数の部門で経験を積むことができます
  - ・外部での活躍の幅が広がります
- （将来、大学や研究機関への派遣・人事交流等も検討中）

### ■本職種ののための新たな処遇を用意します（詳細裏面）

※当初は任期制職員（研究開発マネジメント人材（仮称））としての採用となります  
（2024 年度に登用試験あり）

エントリー締切：2023 年 1 月 10 日（火）

「doda」の URL または QR コードからエントリー下さい

[https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/i\\_id\\_3006940244/](https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/i_id_3006940244/)



JST 国立研究開発法人  
科学技術振興機構  
Japan Science and Technology Agency

## 募集タイトル

JST のファンディング事業推進を担う常勤職員  
（研究開発マネジメント人材（仮称）、任期制職員）

- ・本募集による採用者は、定年制職員への登用制度（新設）の対象となります  
（2024 年度に登用試験あり）

## 応募方法

- ① 「doda」の URL または QR コードからエントリー下さい  
[https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/i\\_id\\_3006940244/](https://doda.jp/DodaFront/View/JobSearchDetail/i_id_3006940244/)
- ② 所定の方法にて下記の応募書類をご提出下さい
  - ・履歴書（JST 指定様式）
  - ・職務経歴書（A4 サイズ／書式不問）
  - ・エントリーシート（JST 指定様式）



## 応募期限

- ① エントリー締切：2023 年 1 月 10 日（火）
  - ② 応募書類提出締切：2023 年 1 月 17 日（火）
- ※②応募書類の電子ファイル受領をもって応募完了となります。「doda」のエントリーのみでは応募受付となりませんのでご注意ください

## 業務概要

JST のファンディング事業において日本の科学技術イノベーション創出に貢献するための研究開発マネジメント業務を担当いただきます

- ・「CREST」「さきがけ」「ERATO」「未来社会創造事業」「ムーンショット型研究開発事業」「創発的研究支援事業」等に携わります
- ・プログラムオフィサー等や研究者と協働して業務を推進し、研究開発成果の最大化を追求する仕事です

配属先は、ファンディング事業関連部門となります

## 処遇

◆年俸制により支給

年収見込み：600 万円以上（みなし残業手当、期末手当含む）

※期末手当（賞与）：6 月、12 月に支給

月額：39 万円以上

（みなし残業手当を除く月額）32 万円以上

（みなし残業手当（30 時間相当分）7 万円以上

- ・別途、超過勤務手当（みなし残業手当相当時間超過分）、通勤手当を加算支給
- ・年俸は、職務経験等を考慮の上、決定

問い合わせ先：

国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

人財部 研究開発マネジメント人材グループ

TEL:048-226-5606 E-mail: rdm-jinzai@jst.go.jp

JST 国立研究開発法人  
科学技術振興機構  
Japan Science and Technology Agency

---

**FA（JST）においても、事業の拡大と多様化への対応として、  
研究開発マネージャーの確保に向けて取組を開始**

**URA（大学）・研究開発マネージャー（FA）のネットワーク**



**大学⇔FAの連携・交流の強化により、競争的資金を通じた研  
究支援施策の立案・実施体制を強化・高度化していく**